

かごしま 祭時記

今できることを
やり続けていく

船木神社保存会・氏子総代

みすみ こうぞう
三角 浩三 さん(78)

30年ほど前まで、船こぎ祭りの時に中学生・高校生による刀踊りも奉納されていましたが、過疎化で子どもが減り、今は行われていません。私も今年を最後に氏子総代を引退し、次の人に引き継ぎますが、今できることをやり続けることが大切だと思っています。多くの方に祭りを知ってもらい、参加していただくことも、祭りを守っていく方法だと考えています。ぜひ、船こぎ祭りを見に来てください。



天明6(1786)年に奉納された船。現在、保存されている中で最古のもの。→

船こぎ祭り

ひおきし ふなま
日置市吹上町田尻／船木神社

模型船を御神体とする 全国に類を見ない祭り

吹上浜海岸から東へ約4km、船木山の北の麓にある船木神社は、吹上浜を向いて建立されています。御祭神である猿田彦命が、この地で船を造らせ、瓊瓊杵尊を船で先導したという伝説が残ります。

「縄文時代はこの近辺が海岸だったと聞いています。船木山の周囲が湖だった時代もあるようです」と語るのには三角浩三さん。船木神社は上田尻、中田尻、下田尻、野首の4集落の氏子によって守られており、三角さんは平成5年から神社を管理する氏子総代を務めています。「今となつては詳しいことはわからないのですが、船は神聖なものとされ、船木神社では氏子が奉納する模型船を御神体としてきました。約230年前に作られたと思われる削り船や明治時代の軍艦を模した船などがあり、現在59体の船が納められています」

年に一度、宝殿からこれらの船を出し、五穀豊穡と家内安全を祈願する神事が、3月20日に行われる「船こぎ祭り」です。祭りは午前11時、神主が祝詞をあげ、おはらいをしてから始

鹿兒島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から日置市吹上町田尻に伝わる「船こぎ祭り」をご紹介します。

まります。境内で輪になった氏子たちに、それぞれ模型船が手渡され、人々は太鼓に合わせ、櫓を漕ぐように「エンヤオー、エンヤオー」と掛け声をかけながら、目の高さに掲げた船を下から上に3度回します。その後、隣りの人に船を渡して同じ動作を繰り返し、境内をひと回りした船は再び宝殿に納められます。その様は、波に揺られて航海する船のようです。「以前は露店も並び賑やかでした。集落の人口が減った今、露店はなく、14人の氏子で祭りを行っています。それでも40〜50人ほどの見物客が来られますよ」と三角さん。時代とともに祭りは簡素化されましたが、自分たちの代で終わらせないようにと氏子たちで協力し、船こぎ祭りを守り続けています。



日置市

日置市は、平成17年に東市来町、伊集院町、日吉町、吹上町が合併して発足した総人口50,485人(平成27年2月1日現在)のまちです。県西部、薩摩半島のほぼ中央に位置し、伝統行事や薩摩焼、優れた泉質の温泉などが特徴です。写真は日置市吹上町中原にある「正円池」。ホテイアオイの群生地が6月から7月上旬にかけて薄紫色の花が湖面いっぱい

日置市